

現場に寄り添う教育センターを目指して

変化する社会の中で教育を取り巻く環境が大きく変わり、学校教育においては教育の質の向上が求められています。その中で本県の児童生徒は「基礎的・基本的な知識・技能」や「活用する力」「学ぶ意欲」などに課題が見られ、「確かな学力の育成」は本県教育の喫緊の課題となっています。県立総合教育センター（以下、教育センターとする）は、これまでに蓄積してきた研修事業・研究事業等の成果を活用し児童生徒の「確かな学力の育成」を柱としつつ、学校の教育力の向上を図るため学校現場を直接支援する取組を進めております。

特に、今年度は北中城村内の各小中学校と連携し、学校現場のニーズに応える教育センターの支援のあり方を構築していくための調査研究事業に取り組んで参りました。その取組の中から得られた成果や課題を踏まえ、『出前講座活用ガイド』を刊行すると共に、学校の教育力の向上を図るための方策として教育センターが学校現場に提示する「学校支援プログラム」を策定することができました。

『出前講座活用ガイド』は、教育センターの出前講座・出前授業等の情報を学校現場へ提供すると共に、その活用方法を周知することを目的としています。平成21年度は、『出前講座活用ガイド』に掲載されている各種講座や学校からの要望に応える講座等を含め、延べ158回の出前講座・出前授業等を実施することができました。学校からの出前講座に関する問い合わせや依頼は、徐々に増えてきており、今後、教育センターの支援事業が学校現場でさらに活用していただけるものと考え

ます。

さて、「学校支援プログラム」とは、学校の教育力の向上を目指して、連携校の課題・要望を把握し、それに応える支援事業を学校の年間計画に組み入れた形で示したものでございます。学校の教育力には、「教師の授業力」や「教職員の組織連携力」、「管理職のリーダーシップ」、「保護者・地域との連携」、「児童生徒の学習意欲」など様々な要素が含まれます。「学校支援プログラム」には、学校の教育力の向上を目指すための具体的な支援事業内容と致しまして、前述の『出前講座活用ガイド』を積極的に活用するほか、学校の実態を踏まえた校内研修や研究授業の指導助言、教材用コンテンツの提供等年間を通して計画的・継続的に取り組む内容になっております。

この「学校支援プログラム」の作成・実施によって、教育センターは学校現場が抱える課題やニーズを把握し、それに応える支援のあり方等についてさらに理解・認識が深められるものと考えております。これらの取組によって新たに得られる成果が、県下の各学校現場に還元され、県全体の学校の教育力の向上及び児童生徒の「確かな学力」の向上に資することができるよう、更に充実した調査研究事業に取り組んでまいります。



出前講座活用ガイド

*****もくじ*****

- | | |
|--|-----|
| ● 現場に寄り添う教育センターを目指して | -1- |
| ● 平成21年度 総合教育センター研究発表会・特別講演会「秋田県の中学校における授業実践の取組」 | -2- |
| ● 教育用コンテンツの活用法・ICTを活用した小学校外国語活動講座 | -3- |
| ● 適応指導教室通級児童生徒交流会・家庭学習の定着を図るための方策 | -4- |
| ● 「体験学習教室」の実施について・特別講演会「理科で鍛える言語力」 | -5- |
| ● 平成21年度障害児教育相談事業・特別支援教育推進のための出前講座・障害児就学相談員事例検討会 | -6- |
| ● 産業教育班の出前授業を活用してみませんか | -7- |
| ● 研修を振り返って | -8- |

平成21年度 総合教育センター研究発表会

沖縄県立総合教育センター調査研究事業は、各班、各主事が、本県教育の今日的課題に取り組み、学校教育の充実と課題解決に資することを目的とし、鋭意調査研究に取り組んでいるところです。

平成21年度の調査研究事業におきましては、従来のプロジェクト研究委員会（所内共同研究）を「学力向上対策委員会」と位置づけ、調査研究のテーマを「確かな学力を育成する取組 ―地域と連携し児童生徒の学力を高める実践の方策―」とし、各班の専門性を生かしながら、学力向上に向け全班体制でベクトルを一つに研究を進めてまいりました。

平成21年度の研究発表会は、2月10日（水）に本館3階講義室において開催いたしました。研究発表の内容は、学力向上対策委員会（1本）、班内共同研究（6本）、移動教育センター共同研究（1本）より、合わせて8本の研究成果が発表されております。また発表会には、教育関係者だけでなく一般の方々を含め、外部より計82名の参加があり、総勢198名の参加で盛況のうちに終えることができました。さらに、発表後の質疑応答においても活発な意見交換が行われ、今後の本教育

センターの調査研究事業に対する多くの提言をいただきました。

参加者のアンケートによると、各班の発表に対し90%以上が「大変参考になった」「まあまあ参考になった」と回答をいただきました。またアンケートの感想には、「どの班もすばらしい発表でした。中でも理科研修班や産業教育班の発表で紹介された教材、コンテンツはすぐにでも使えるものでした。」など、実践に活かせる発表内容であるという評価をいただきました。そのほかに、「出前講座活用ガイドは大変興味深く、校内研修で活用したいと思います。」など、出前講座活用ガイドに対する期待の高さが窺える感想も多く見られました。さらに、「確かな学力の向上という一つのベクトルに統一した研究であることを実感しました。」という感想も寄せられ、本県教育の喫緊の課題である「確かな学力の向上」に係る調査研究に対する取組に評価をいただきました。

なお、研究内容の詳細（報告書、発表会ビデオ）につきましては、県立総合教育センターホームページ（<http://www.edu-c.open.ed.jp/>）をご覧ください。

特別講演会「秋田県の中学校における授業実践の取組」 ―「確かな学力を育成する取組」に係る特別講演会―

平成21年12月28日（月）、秋田県大館市第一中学校教頭小笠原茂人氏並びに同校教諭比嘉利博氏を講師としてお招きし、「秋田県の確かな学力を育成する取組」のテーマで特別講演会を開催いたしました。270名余が一堂に会した講演においては、大館市立第一中学校の「きめの細やかな指導」に全職員が一丸となって取り組んでいる状況等の報告があり、本県教育関係者、所員・研修員共に大きな感銘を受けました。

参加者からのアンケートには、「本県と秋田県の違いについて大変カルチャーショックを受けました。大館市立第一中学校での授業改善のための研修や生徒の課題に関する真剣な教師集団の熱意が伝わってきました。実際、目の前の子供達にどのように取り組んでいったら良いのか具体策を探していき、改善できるようにしたいと思います。」

教師のきめの細かい指導と地域・家庭との連携を積み上げていきながら、県全体で取り組んでいきたいと思いました。」等の感想も寄せられました。本講演会の目的である「本県児童生徒の確かな学力を育成するための方策を考える機会とする。」を達成することができ、その成果は今後の教育活動に生かされるものと確信しております。



特別講演会の様子

教育用コンテンツの活用法

県立総合教育センターの教育情報共有システムには、約4万点以上の教育用コンテンツが蓄積されています。センターWebページにあるシステムへの入り口（リンク）から「小学校教材はこちらから」に入ると、小学校のデジタル教材の一覧表が各学年ごとに表示されます。更に中に入ると各教科別に分類されていますので、目的のデジタル教材を見つけやす

くなっています（中学校、その他の校種については、今後追加していく予定です）。また「学習教材・指導案など」の入り口からは、分類検索の画面が表示されますのでカテゴリ毎にコンテンツを探すことができます。更に「コンテンツ検索」の入り口からは、新システムになって追加された「絞込検索」、「全文検索」を利用してより詳細なコンテンツの検索が行えます。

各学校現場の先生方が利用しやすいように改善された教育情報共有システムを、是非活用して下さい。



ICTを活用した小学校外国語活動講座

平成21年度「ICTを活用した小学校外国語活動講座」は平成21年5月21日（木）～平成22年3月5日（金）の期間に、20回の講座を実施しました。482名の小学校教諭が、インターネットを利用して教育センターの沖縄グローバル・エデュケーション・ネットワークシステム上の講座を受講しました。本講座はビデオコンテンツ化され、受講者の都合に合わせて視聴でき、必要に応じて繰り返し受講できるようになっています。平成21年度については全20回講座の受講率は97.0%でした（3月15日現在）。

平成22年度については講座回数を15回、1回の時間を30分とし、5月20日（木）～8月31日（火）の期間で、前年度よりコンパクトになります。講座内容は前年度の内容を精選し、最新の授業方法、実践等を含め、好評の「教室で活用する英語会話（美ら島イングリッシュコーナー）」も充実させます。また、学校の要望に応じて出前講座も実施し、小学校外国語活動を一層支援致します。研修内容は右表のとおりです。

講座の詳細につきましては各小学校に送付しました実施要項をご覧ください。

回	平成22年度「ICTを活用した小学校外国語活動講座」 研修内容予定
1	○開講式、オリエンテーション
2	○外国語活動の理念
3	○学級担任の役割及びTT授業
4	○効果的なチームティーチング
5	○小学校外国語活動の評価 ○美ら島イングリッシュ
6	○年間計画の立案とシラバス ○美ら島イングリッシュ
7	○日本人と英語 ○言語習得理論①
8	○言語習得理論②
9	○言語習得理論③、○美ら島イングリッシュ
10	○アクティビティ① ○美ら島イングリッシュ
11	○アクティビティ② ○美ら島イングリッシュ
12	○歌とチャンツの指導
13	○教育センターコンテンツ紹介 ○美ら島イングリッシュ
14	○新しい実践活動①
15	○新しい実践活動②

適応指導教室通級児童生徒交流会



本総合教育センターでは、適応指導教室通級児童生徒等への支援を充実させることを目的に、県内10ヵ所（先島の2ヵ所を除く）の適応指導教室の児童生徒や各学校の不登校児童生徒を対象に、年2回のスポーツ交流会と年1回の体験活動交流会を開催しております。

現在、県内には12ヵ所の適応指導教室が設置されていますが、そのほとんどが児童生徒数10人以下の小規模な教室のため、児童生徒同士の交流を深めたり、連帯感を育てることが難しい状況です。本交流会は、そのような課題に対応するために、人数の少ない各適応指導教室では味わうことのできない集団のダイナミックさを体験する機会として7月と11月に「スポーツ交流会」を実施し、1月には、当総合教育センターの設備や人材を総合的に活用した「体験活動交流会」を実施しております。

実施にあたっては、負担なく交流の輪を広げていけるよう、子ども達の心身の状況をふまえて内容や実施方法等を工夫しており、毎回、各教室の入級児童生徒のほぼ全員が参加し、児童生徒がもっとも楽しみにしている事業の一つになっています。

参加者からは、「はじめは不安だったけど、とっても楽しかった」「次も参加したい」等の声が寄せられ、指導者からは、「貴重な体験をさせて顶きました。今後も続けてほしいです。」等の声が多く寄せられました。

不登校になる子は、自分から友達を作ることが苦手なことが多く、人との関わり方を身につけることが重要です。今回の交流会は、スポーツや体験活動を通して、多くの人との出会いがあり、連帯感の育成にもつながったと思います。



スポーツ交流会

家庭学習の定着を図るための方策

家庭学習の定着を図るための方策として、「早寝早起き朝ご飯」運動に示されるように基本的な生活習慣の確立を図ることや、学校と家庭、地域が連携・協力して取り組むことの重要性を、学校や保護者に理解させ、具体的な取組を示すことを目的に、以下の3点について研究を進めました。

◎全国学力・学習状況調査の分析結果

「全国学力・学習状況調査」（クロス集計）の基本的な生活習慣と正答率との関係について分析した結果、「規則正しい就寝と起床」「朝食の摂取」「親子のコミュニケーション」と学力との間に相関関係があることが明らかになりました。これらの結果を通して基本的な生活習慣を確立することが学力向上に深く関係していることを理解させることが重要となります。

◎学ぶ力の土台となる自己肯定感の育成

学習習慣の定着のためには、向上心と地道な努力が必要ですが、自己肯定感の低い子どもは、自

分を信じる事が出来ずに、目標に向かってねばり強く努力することができません。自己肯定感を育てるには、子どもの存在感を認める関わりや、子どもの話を傾聴するなど、大人の関わり方が重要であることを、親や教師等に啓発していくことが必要となります。

◎家庭学習の定着を図るための具体的な取組

家庭学習の習慣化を図る具体的な取組として、学校では、子どもたちの基礎学力をつけ、学び方を教え、主体性を育てる学習指導、また、子どものよさを生かした家庭学習の提案が必要となります。一方、家庭では、生活リズムを整え、決まった場所と時間で学習に集中できる環境づくりと、認め、励まし、対話のある温かい親子の触れ合いの時間を設けることが重要となります。

平成22年度は、これらの研究成果を生かして、各学校へ出かけ出前講座の実施を通して「家庭学習の定着」を図るための取組を支援していきたいと考えております。

「体験学習教室」の実施について

「体験学習教室」事業は、地域の教育・文化活動の活性化に努め、小・中学生の親子を対象に、実際に物に触れる体験活動を通して学習する喜びを実感してもらうことを目的としています。

本事業には各市町村教育委員会の協力を得て実施する「おもしろ科学教室」があり、今年度は当教育センター(7月26日実施)、竹富町西表島の大原中学校(11月14日実施)、南城市百名小学校(11月28日実施)、そして今帰仁村の村営体育館(12月19日実施)の4地域で実施しました。児童・生徒の興味・関心を引く楽しい実験やもの作りなどの体験コーナーを設け、多くの教職員や高校生のボランティアによるサポートのもと行われました。

本事業の2つめは、夏と秋に行われる「親子星空教室」です。当教育センターに設置されているコンピュータ制御による大型望遠鏡を活用し、今年度は7月3日(金)、4日(土)に夏の星空観察を行い、9月26日(土)には秋の星空観察を行いました。残念ながら悪天候のため、7月3日(金)は望遠鏡による星空観察を行うことが出来

ず、プラネタリウムで夏の代表的な星座や天体の動き方などを学習しました。

本事業の3つめは当教育センターの理科研修班各研究室がそれぞれ実施する、「たのしい体験教室」です。平成21年度の参加数は、小・中学生とその保護者を合わせて1,009名でした。平成22年度はさらに多くの参加者を募るため、申込の際に参加希望者がメールや電話を利用できるように検討しています。

離島における「おもしろ科学教室」開催についても、さらに内容の充実を目指してまいります。



体験学習教室の様子

特別講演会「理科で鍛える言語力」

平成22年1月8日に筑波大学附属小学校教諭佐々木昭弘氏を迎え、「理科で鍛える言語力」の演題で講演会を開催しました。講師の佐々木氏は、日本初等理科教育研究会本部役員として全国各地で授業研究会を実施するなど初等理科教育の発展のため積極的に活動されています。今回の講演会は教師の指導力向上に資する目的で、模擬授業(長期研修員が生徒役)を行い、その後に授業のねらいや視点の解説などを講話する形式で行いました。

模擬授業では、小学校3年生の単元「ものの重さ」について「形を変えると紙コップの重さはどうなる?」をテーマに、問題把握(問い)→自力解決(予想)→討論(話し合い)→観察・実験→結果→結論(考察・まとめ)の授業展開をわかりやすく丁寧に実践していただきました。その後の講話では、「多くの授業では予想の段階で討論に時間をかけている傾向があるが、実験の結果からわかったことを適切な文章で表現しまとめる言語活動の指導、時間の確保が大切である。」また、「言語活動は国語の授業のみではなく全教科で重

要な活動であり、言語力は様々な学習の中で培われるべきだ」ということを強調されておりました。当日は、理科専科の先生方をはじめ所内外から150名余の参加があり、会場は真剣な眼差しに包まれた模擬授業と、その後の活発な質疑で大変有意義な講演会となりました。参加者からは「実験のおもしろさもさることながら、子供たちにどのように問題解決の過程を体験させるのか授業設計がいかにか大切にあらためて考えさせられました。」などの感想が寄せられました。



模擬授業の様子

平成21年度 障害児教育相談事業

— 電話・来所教育相談 —

県立総合教育センター特別支援教育班における障害児教育相談事業（以下「教育相談事業」）には、相談者が予約後に来所して相談する「来所相談」と電話で相談する「電話相談」があります。乳幼児から高校生までの保護者や学校・保育所等の担任および関係者を対象に、養育・教育・医療等の相談に、特別支援教育班の主事や嘱託医が対応しています。

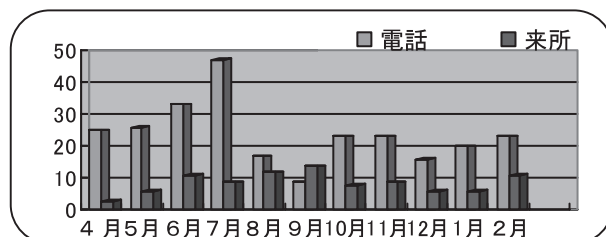
教育相談事業は、「学校が自校の課題として認識し、校内支援の体制作りをはじめ、特別支援教育の充実を図る方向で進めていく」ことを目的として、学校コンサルテーションを目指した相談を行っています。そのため、困難な問題に直面している学校からの相談者が、その問題や課題を評価・整理し、解決できるよう支援しています。

平成21年度も、保護者や学校及び関係機関から、数多くの相談に対応してきました。右のグラフは、今年度2月までの障害児電話相談、来所相談の件数です（来所 95件 電話 262件）。

6, 7月の電話相談件数がもっとも多いのは、各学校の特別支援教育コーディネーターが学年初めに校内の実態把握を行い、特別な教育的支援を必要とする子どもに対して、支援を開始し、当センターの相談につないだ結果と考えられます。

2月の電話、来所相談の件数が増えたのは、次年度に向け、保護者の不安や学校における引き継ぎ等を含めた相談が増えたためだと考えます。進学や就学に関しては、保護者、学校とも支援の方法に苦慮していることが垣間見え、具体的な対応策を伝えていく必要があると考えます。

今後は、さらに保護者や学校からのニーズに対応できるよう、当センター及び関係機関との連携を考慮した相談システムの充実を図り、障害のある子どもたちの自立に向けて取り組んでいきたいと考えています。



平成21年度 障害児電話相談・来所相談件数

特別支援教育推進のための ”出前講座”

特別支援教育班では、県内の特別支援教育の充実を図るため出前講座に取り組んでいます。

平成21年度も小・中・高等学校等をはじめ、市町村教育委員会での研修を行い、発達障害の特性や支援方法をはじめ、特別支援教育に関する基本的・発展的な内容での研修を行ってきました。

特に離島への出前講座は、日頃、研修機会をなかなか得ることができない先生方にとっては、特別支援教育のノウハウを知るよい機会となったようです。

子ども一人一人のニーズに応じた具体的な対応や保護者の心情理解と連携については、学校現場の関係する職員の実践に繋がる内容であり、特別な教育的支援が必要な子どもたちの支援・指導の工夫や改善へと繋がっています。

今後も、特別支援教育の充実に向け、離島を含めた地域での出前講座、学校支援に取り組んでいきます。



久米島の出前講座の様子

平成21年度障害児就学相談員 事例検討会・研修会

平成21年度障害児就学相談員の事例検討会・研修会を平成22年2月24日(水)に行いました。

障害児就学相談員（以下「就学相談員」）は、特別支援学校15校の相談員が、地域の障害のある子どもたちの適切な就学を支援していくために設置されています。

事例検討会・研修会は、その就学相談員が、地域で行っている就学相談への対応等で、課題として上がった事例を検討することによって、相談対応への資質の向上を目的として開催しています。また、当センターの嘱託医からの助言等を受け、相談実践に活かしています。

今後は、学校コンサルテーションの充実を目指すためにも、就学相談員の資質の向上を図り、地域の特別支援教育の推進のために取り組んでいきます。



就学相談員事例検討会・研修会

産業教育班の出前授業を活用してみませんか

産業教育班では産業界の急速な技術革新に対応した職業教育を行うため、先端技術装置及び高度情報機器等に関する教職員研修や生徒実習を実施していますが、このような職業教育に関する様々な教材を生かし、本年度から小中学生の学力向上への支援として体験的な出前授業を行っています。

確かな学力の中核である「学ぶ意欲」を向上させる取り組みの一つに、将来の生き方や職業観等を関与させた指導の充実が求められています。産業教育班の出前授業は、児童生徒に「学んだことが社会で活用できる」ことを理解させるとともに、「学ぶことの意味や楽しさ」を実感できる授業の支援になります。

◎農業分野の出前授業

農業分野の出前授業は、生活科や理科、社会、算数などの教科で学んだ内容と結びつけた体験的学習を展開することができます。作物の観察、観測等を通じた科学的思考力や自然を大切にする心の育成に効果的です。また、イネづくりや草花栽培等の出前授業を、総合的な学習の時間や特別活動で実施することにより、環境教育や食育の学習にも役立ちます。



総合的な学習の時間 イネの栽培



小学校理科 モータの仕組み

◎商業分野の出前授業

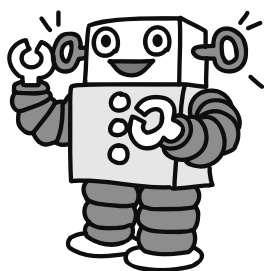
商業分野では、児童生徒の身近にある店舗の営業をととして、企業の経済活動について学習する出前授業を実施します。おもに中学校社会科などの授業において、経営シミュレーションソフトを活用した実習を通して、グループで店舗経営を行いながら創意工夫を発揮し、主体的に課題を解決する姿勢を促します。コンビニの売上を伸ばすために様々な取り組みを行う中で、児童生徒が仕事の面白さや大変さに気づく機会となります。



中学校社会 コンビニ経営

◎工業分野の出前授業

工業分野では、先端機器を活用した体験学習を実施することが出来ます。特に、小中学校理科の授業では、実社会で行われている「ものづくり」体験を通して、学んだことが将来の役に立つことを体感させる支援となります。例えば、小学校5年理科の「電流のはたらき」の単元で、スピーカの組み立てやロボット制御などの出前授業を通して、実感の伴った理解を図り、学ぶことについて児童・生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上に繋がります。



新学習指導要領では、体験的な学習や問題解決型の学習など、生徒の主体的な学習が重要視されています。産業教育班では、児童・生徒の学力向上の支援を目指し、様々な体験的な出前授業を用意していますので、是非、ご活用ください。

研 修 を 振 り 返 っ て

教科研修班

浦添市立当山小学校

教諭 徳門 敦子



「この資料あなたの研究に役立つんじゃない?」「主事が指摘していたのはこう考えるといいんじゃない?」

教科研修室ではこのような熱い議論

が繰り返されていました。校種も教科も違う14人が、縁あって同じ場所ですごした日々。一番の成果はこのような議論だったと思います。主事から頂いた厳しい助言で落ち込むこともありましたが同情ではなく、共感して高め合うことができました。今後もこの気持ちを忘れず熱い教員でいたいです。

教育経営研修班

那覇市立古蔵中学校

教諭 浦崎 博美



総合教育センターでの研修は、現場では味わえない貴重な半年間でした。研修員同士での情報交換や、主事の先生方の温かく、そして丁寧な

ご指導のお陰で、充実した実りの多い研修になったと感謝しています。特に、研修の合間に、喜納所長や城間班長との、お茶の時間は癒しの時間であり、研修中の楽しみの1つでした。この半年間で培ったものを今後は、現場に戻って子ども達のために役立てていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

理科研研修班

糸満市立糸満中学校

教諭 井上 洋文



6ヶ月という期間、始める前は「何に挑戦しよう」と考えていましたが、あっという間に過ぎ去っていき

ました。この研修期間中に、学校だけでは経験できない貴重な出会いがたくさんありました。いつもにこやかに声をかけてくださる所長をはじめ主事の皆様との出会い。特に、野外研修など、様々な場面で理科の楽しさを再認識させていただき、研究のサポートをして頂いた理科研研修班の主事の皆様。様々な校種や教科を超えて交流することができた研修員の皆さん。私は毎週1、2回の利用でしたが、とてもおいしいおでんと共にいつもにこやかに迎えてくれる食堂のKさん等々…。ここで学んだことを学校現場で同僚や生徒に還元していきたいです。

特別支援教育班

県立沖縄ろう学校

教諭 高橋 千草



総合教育センターでの研修は、各学校種の指導や課題についても学ぶことができ、教員として知見が広が

り充実した半年間でした。自分の研究を進めるにあたり、たくさん悩み立ち止まって考えることもありましたが、主事の先生方の多くのご指導や研修員仲間の励ましを受け、最後まで課題に向き合うことができました。今後は子どもたちのために、学んだことを現場で還元していきたいと思います。ありがとうございました。

産業教育班

県立南部農林高等学校

教諭 大城 匡司



「花」と「緑」の学問の府にて、1年間という長期にわたりさまざまな研修を終えることができ感謝して

おります。班長、指導主事の方々から時には厳しくも温かな指導助言、励ましをいただき、和やかな雰囲気の中、日々笑いもある和気藹々と充実した研修を行うことができました。1年間の研修を通して成し遂げた達成感が、さらに仲間意識を築きあげることができ、他校種の先生方との「人財」を得ることにつながったと思います。喜納所長が講話でお話されていた教員に必要な3K・1Y(寛容、謙虚、公平、ユーモア)を忘れず、現場にて還元できるよう取り組んでいきたいと思っています。

IT教育班

県立那覇工業高等学校

教諭 佐久本 厚



1年長期研修では、多くの講話、講座、講演会を受講でき、改めて教師としての在り方・生き方を考えさせ

られました。また、フラワーフライデー、クラブ活動では小・中・高・特支と校種を超えた研修員との交流を通して人脈を広げることができました。研究発表会や検討会における指導主事からの叱咤激励のおかげで、所期の目標を上回る研究成果を出すことができました。今後は研修で得た成果を授業で活かし、生徒達に還元していきたいです。